【資料２-3】

令和４年度におけるスポーツ推進計画の主な取組み状況について

基本目標Ⅲ　スポーツによる賑わいとまちづくりの推進

推進項目

（１）スポーツツーリズムの推進
（２）スポーツを通じた地域コミュニティの維持・再生
（３）ホストタウン登録におけるニュージーランドとの交流

1　湊酒田つや姫ハーフマラソン大会

・交流人口の拡大を目的としたスポーツツーリズムに取り組むため、コロナ禍で 3 年ぶりに「第 11 回湊酒田つや姫ハーフマラソン大会」（令和 4 年 10 月 16 日）を開催した。全国 31 都道府県、1,065 人のエントリーをいただき、コロナ対策として実施種目をハーフと 10 キロの 2 種目に限定した。

・種目を限定したことにより、全体のエントリー数は第 8 回大会と比較すると 777 人減となったが、全体の 45.7%は県外ランナーだった。コロナ以前よりは参加年代が限定されてしまったが、多くの県外ランナーがエントリーする全国区の大会となってきたと感じている。

・今大会は、全日本実業団駅伝（ニューイヤー駅伝 2023）に出場した埼玉医科大学グループのメンバー11 名等が 10km の部にエントリーするなど、トップ集団ではハイレベルな戦いが繰り広げられた。

・40 代・50 代の参加者が過半数いることから、働き世代のスポーツ活動の支援や女性のスポーツ参加支援という点で参加者の好評価に繋がった大会であったと考える。

【エントリー数】
1,065 人（男性 892 人、女性 173 人）
　うち、県外参加者　487 人（全体の 45.7%、第 8 回大会 30.3%）
種目別／（ハーフ）653 人　（10 km）412 人

・日本陸上競技連盟公認大会として 9 年目。今年度はコースの一部変更に伴い、ハーフマラソンと１０キロの２つのコースで日本陸上競技連盟公認コースの更新手続きを行った（公認期間：2027 年 9 月 29 日までの 5 年間）。

・「東京マラソン 2023」との一般提携大会として、今年は本大会を通じて 3 名の選手を推薦することができた。

・市民ボランティアの積極的な参加と地元企業の協力により、参加者と市民の一体感が回を重ねるごとに増し、酒田市ににぎわいを創出することができた。

【警備・ボランティアスタッフ】　556 人
・一般ボランティア（一般・企業・各協力団体等）90 人
・酒田市陸上競技協会・高校生陸上部 100 人
・各地区体育振興会、酒田市スポーツ推進委員 201 人
・宮野浦体育振興会 55 人
・救護関係 35 人（酒田地区医師会・日本海総合病院・消防組合・ＳＭＡＲＴ）
・市職員 75 人　　※他、警備員 134 人

・今大会のゲストランナーとして野々村 真さんを迎え（4 回目の参加)、ランナーや沿道で応援する方々と触れ合っていただき、大会を盛り上げていただいた。
・今大会ではコロナ対策として、つや姫「おにぎり」のみの参加賞提供となり、フィニッシュ後の「いも煮」は提供できなかったが、来年度はぜひ「いも煮」の提供を復活させてランナーの皆様へ庄内の味を振る舞いたいと考えている。

2　みなと酒田トライアスロンおしんレース大会
・新型コロナウイルス感染症の影響により 3 年連続で中止となった（令和 5 年度大会も既に中止決定済)。

3　市民体育祭
・地域を代表して参加する市民が安全・安心して参加できるように、実施種目の見直しや昼食を含まない半日開催の日程にするなど、大会規模縮小を検討して進めてきたが、新型コロナウイルスの感染症の影響により、大会中止を決定した。
【開催判断基準】
事前の参加意向調査で参加を希望する地区が 15 地区以上あった場合は計画通り開催するとしていたが、結果的に参加地区が 11 地区にとどまったため、大会を中止した。

4　市巡回駅伝競走大会
・大会の開催可否を検討するにあたり、各地区体育振興会長へ参加意向調査を実施した結果、1 部チームの参加数が大会開催の判断基準を満たしたことから、3 年ぶりに計画通り大会を開催した。
【開催判断基準】
事前の参加意向調査で参加を希望する地区（1 部チーム）が 10 地区以上あった場合は計画通り開催するとしており、結果的に参加地区が 10 地区あったため開催した。
・大会には 15 チーム（1 部が 9 チーム、2 部が 6 チーム）がエントリーしたが、当日、新型コロナウイルス感染症の影響により 3 チームが棄権となった。
・今大会から酒田市陸上競技協会の協力がなくなり、中継所の運営等不安を感じる部分があったが、体育振興会等のスタッフや酒田警察署からの協力も頂きながら、大きな混乱やトラブルもなく安全安心に大会を運営することができた。

●大会結果

【１部】

順位	チーム名
１位	宮野浦
２位	やわた
３位	ひらた

【２部】

順位	チーム名
１位	ゆざ A
２位	ゆざ B
３位	MAZUYAMA

5　東京 2020 オリンピック・パラリンピックをきっかけとするニュージーランドとの交流

・在ニュージーランド日本国大使館や在オークランド日本国総領事館からの呼び掛けに応じ、ウェリントン（令和 4 年 6 月 18 日）やオークランド（令和 4 年 11 月 6 日）で開催された日本関連の催事において、大使館・領事館ブースでのホストタウン自治体 PR に出展し、ニュージーランド市民に対して本市のホストタウン交流について周知を図った。

・市内在住ニュージーランド出身の方をゲストに迎え、「アドベンチャーツーリズムと SDGs」をテーマに市民向け講座（令和 4 年 12 月 4 日）を開催した。講座では、酒田南高校の生徒から酒田の自然を生かしたアドベンチャーツーリズムプランとこれらのプランで取り組める SDGs のポイントを提案してもらった。また、ニュージーランド出身のゲストからは、ニュージーランドのマイボトル活動やニュージーランド発祥のバンジージャンプなど人気のアウトドアアクティビティを紹介してもらい、参加者とともに今後のアドベンチャーツーリズムの可能性について意見交換を行った。

・共生社会の先進国であるニュージーランドから共生社会について学ぶ市民向け講座（令和 5 年 2 月 18 日）を実施する予定。東北公益文科大学教授の武田真理子氏をはじめ、現在ニュージーランドの共生社会について研究している同大学武田氏ゼミ所属学生 3 グループから、「高齢者支援」「LGBTQ のパートナーシップと結婚」「児童虐待といじめ問題の克服」をテーマに研究成果を発表してもらうとともに、参加者との意見交換を通じて共生社会について考えを深める。